

草加市男女共同参画アンケート 調査結果報告書（概要版）

令和2年3月

草 加 市

目 次

調査の目的と方法.....	1
調査結果の概要.....	1
◎男女共同参画意識.....	2
◎仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	4
◎ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力）	7
◎性的少数者（LGBT）	9
◎学校教育	10
◎地域での活動	10
◎草加市の政策決定の場への女性の参画.....	11
◎男女共同参画推進に関する行政施策.....	11

調査の目的と方法

調査の目的と趣旨

この調査は、草加市の男女共同参画社会づくりに関して、市民、事業所、市民活動団体等の意識及び実態を把握することで、「草加市男女共同参画プラン2016」の実績を確認するとともに、次期の男女共同参画基本計画である「(仮称)草加市男女共同参画プラン2021(令和3年度～令和7年度)」の策定の基礎資料として活用することを目的とし、実施されました。

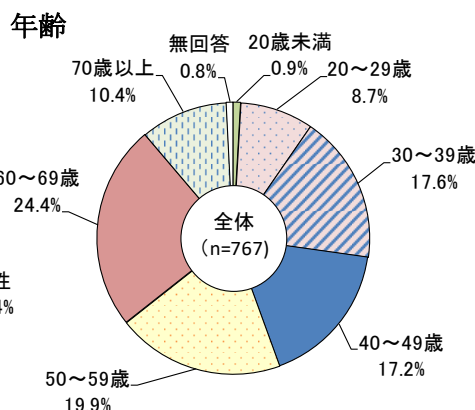
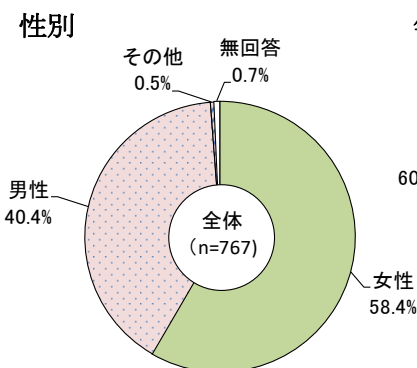
調査方法

	市民調査	企業・事業所調査	市内活動団体調査
調査対象	草加市在住の満18歳以上(令和元年8月1日現在)の男女(外国籍市民含む)	草加市内の企業・事業所[各企業につき総務人事担当者1名及び従業員2名(うち1名以上は女性従業員)の計3名に回答を依頼]	草加市内の市民活動団体(町会・自治会含む)
調査方法	郵送配布・郵送回収		市内の公共施設において配布、回収(町会・自治会については郵送配布、回収)
調査時期	令和元年9月17日(火)～令和元年10月4日(金)		
配布数(A)	2,000 票	300 票	200 票
回収数	769 票	72 票	120 票
うち有効回収数(B)	767 票	72 票	120 票
有効回収率(B/A)	38.4%	24.0%	60.0%

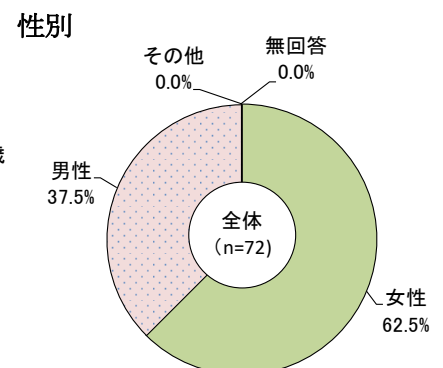
調査結果の概要

◎回答者属性

【市民調査】



【企業・事業所調査】

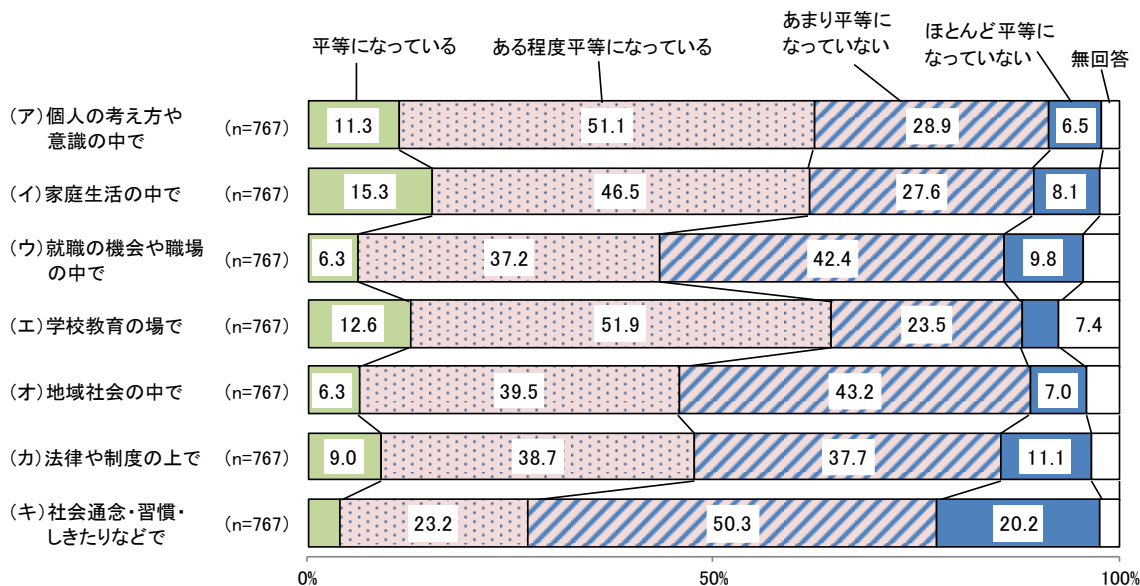


◎男女共同参画意識

男女平等の実現度

男女平等の実現度について場面ごとにたずねたところ、「平等になっている」と「ある程度平等になっている」を合わせた《平等である》は、『(エ) 学校教育の場で』について64.5%と最も高くなっています。一方、「あまり平等になっていない」と「ほとんど平等になっていない」を合わせた《平等でない》は、『(キ) 社会通念・習慣・しきたりなどで』について70.5%となっています。

■単位%(5%未満非表示)

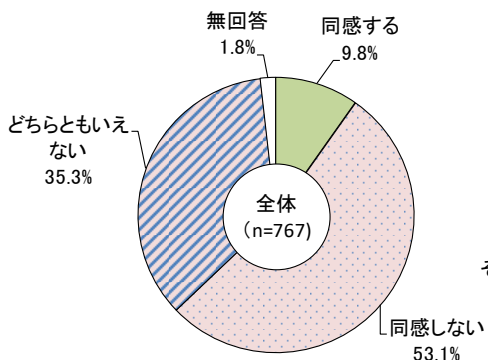


※5%未満値 ⇒ 「平等になっている」: (キ) 3.9%
 ⇒ 「ほとんど平等になっていない」: (エ) 4.6%
 ⇒ 「無回答」: (ア) 2.1%、(イ) 2.5%、(ウ) 4.4%、(オ) 4.0%、(カ) 3.5%、(キ) 2.3%

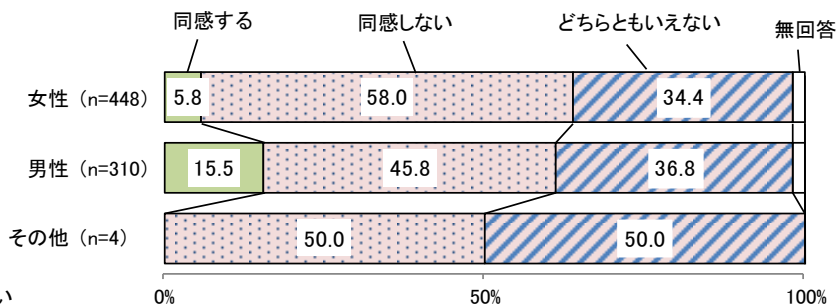
性別による役割分担の考え方

「男性は仕事、女性は家庭」という性別による役割分担の考え方をたずねたところ、全体では「同感しない」が最も高く、53.1%となっています。性別で見ると、女性では「同感しない」が58.0%で、男性を12.2ポイント上回っています。

全体



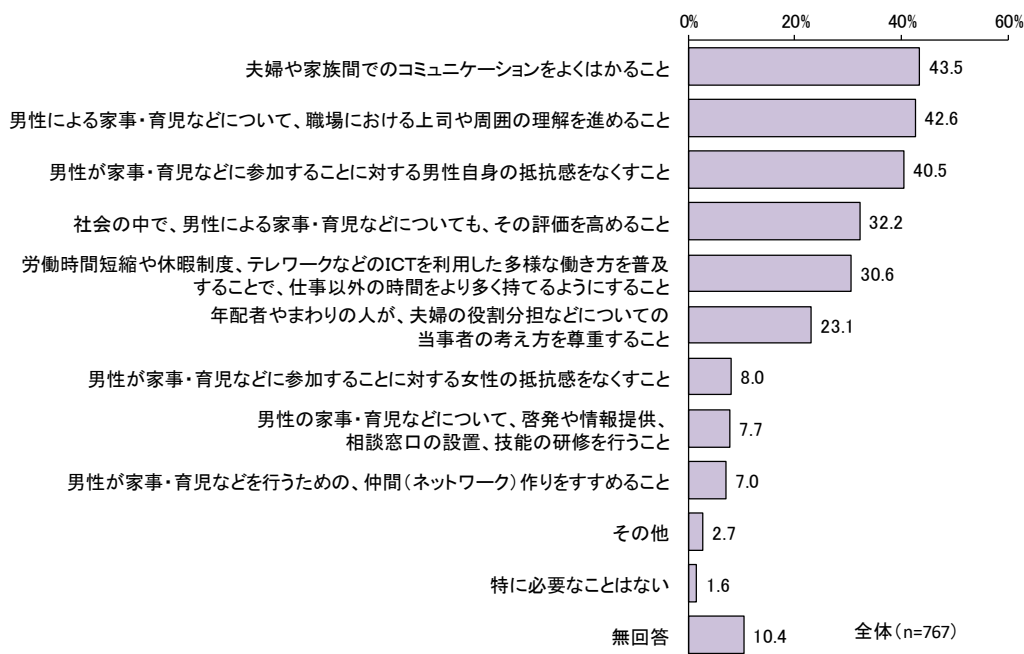
性別



※5%未満値 ⇒ 「同意する」: その他 0.0%
 ⇒ 「無回答」: 女性 1.8%、男性 1.9%、その他 0.0%

男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加に必要なこと

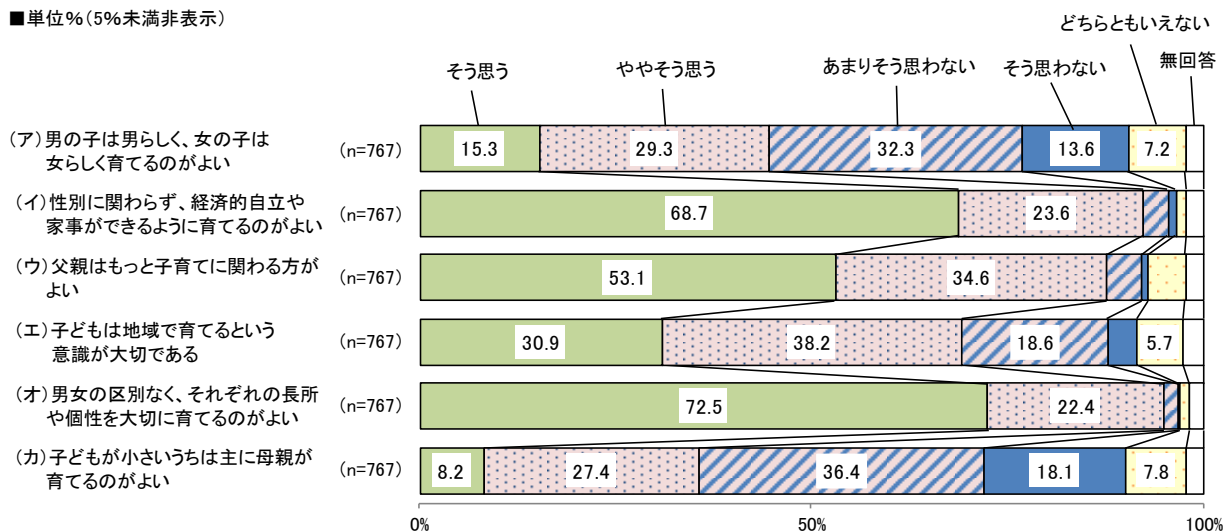
男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加に必要なことをたずねたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が43.5%と最も高く、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が42.6%で続いています。



子どもの育て方についての考え

子どもの育て方の考えをたずねたところ、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた《そう思う》の割合は、『(オ) 男女の区別なく、それぞれの長所や個性を大切に育てるのがよい』で94.9%、『(イ) 性別に関わらず、経済的自立や家事ができるように育てるのがよい』で92.3%と特に高くなっています。『(カ) 子どもが小さいうちは主に母親が育てるのがよい』は、《そう思う》が35.6%と最も低い割合となっています。

■単位% (5%未満非表示)



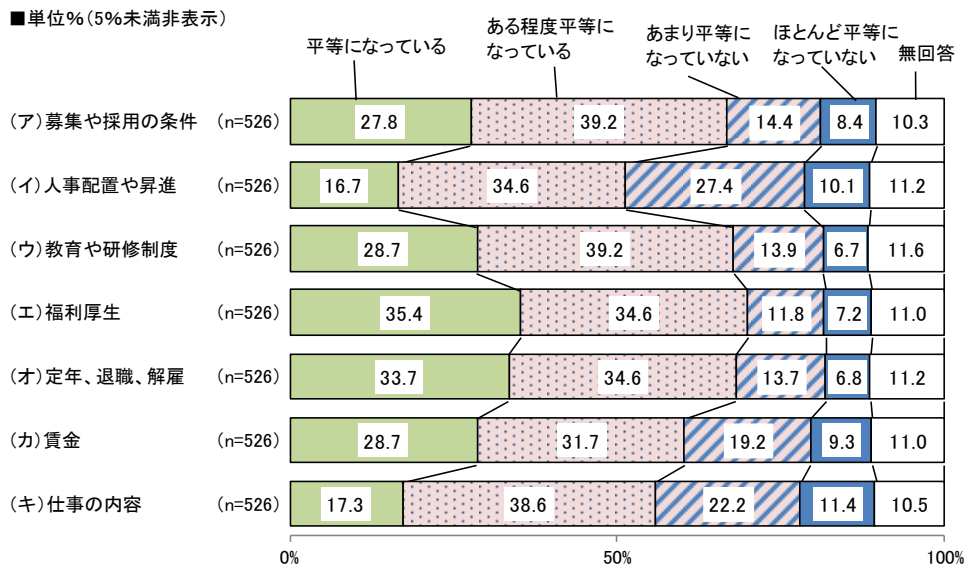
※5%未満値 ⇒ 「あまりそう思わない」：(イ) 3.1%、(ウ) 4.6%、(オ) 1.8%
 ⇒ 「そう思わない」：(イ) 1.0%、(ウ) 0.8%、(エ) 3.8%、(オ) 0.3%
 ⇒ 「どちらともいえない」：(イ) 1.4%、(ウ) 4.7%、(オ) 1.2%
 ⇒ 「無回答」：(ア) 2.3%、(イ) 2.1%、(ウ) 2.3%、(エ) 2.7%、(オ) 1.8%、(カ) 2.1%

◎仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

職場における男女平等の状況

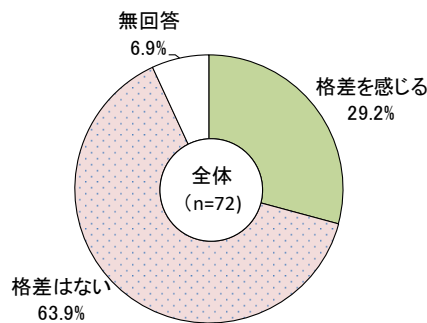
【市民調査】

職場における男女平等の状況についてたずねたところ、「平等になっている」と「ある程度平等になっている」を合わせた《平等である》は、『(ア) 募集や採用の条件』『(ウ) 教育や研修制度』『(エ) 福利厚生』『(オ) 定年、退職、解雇』について概ね7割となっています。『(イ) 人事配置や昇進』『(キ) 仕事の内容』については、6割を下回っています。



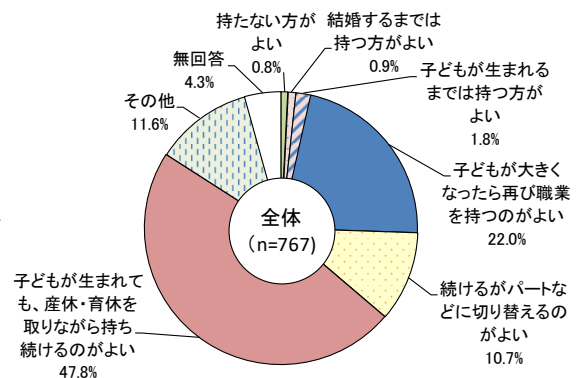
【企業・事業所調査】

回答者が現在働いている会社（事業所）において、男女格差を感じるかを聞いたところ、「格差を感じる」は29.2%、「格差はない」は63.9%となっています。



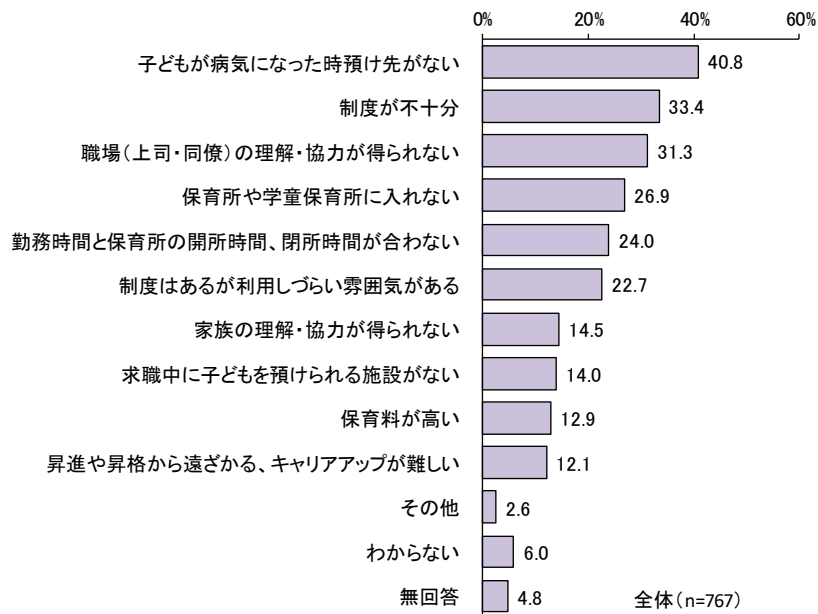
女性が職業を持つことについての意識

女性が職業を持つことについてどうあるべきかをたずねたところ、「子どもが生まれても、産休・育休を取りながら持ち続けるのがよい」が47.8%と最も高く、次いで「子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」が22.0%となっています。



女性が働くうえで支障となっていること

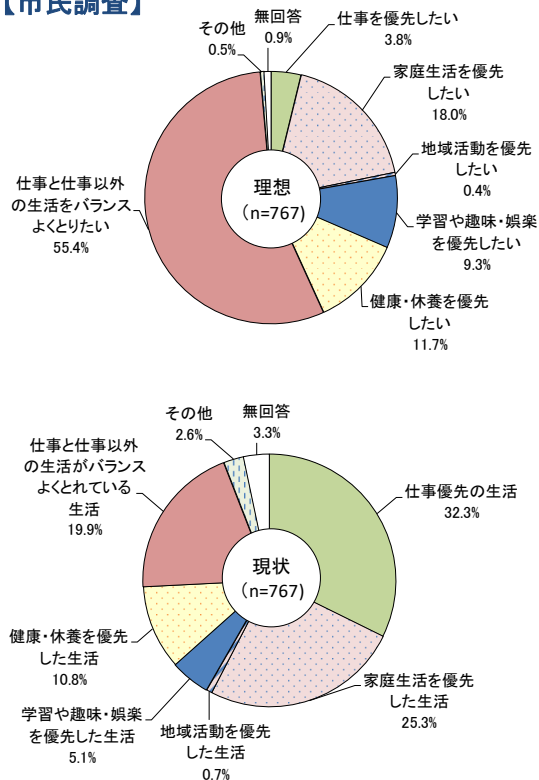
女性が働くうえで支障となっていることをたずねたところ、「子どもが病気になった時預け先がない」が40.8%で最も高く、「制度が不十分」が33.4%で続きます。



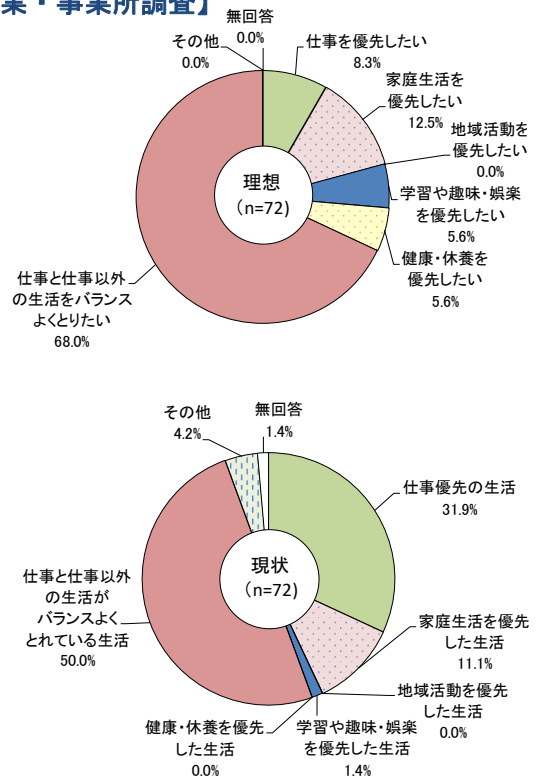
仕事と生活のバランス

生活における仕事と生活のバランスについてたずねたところ、市民調査と企業・事業所調査ともに理想は「仕事と仕事以外の生活をバランスよくとりたい」が最も高くなっています。現状は市民調査では「仕事優先の生活」、企業・事業所調査では「仕事と仕事以外の生活がバランスよくとれている生活」が最も高くなっています。

【市民調査】



【企業・事業所調査】



理想

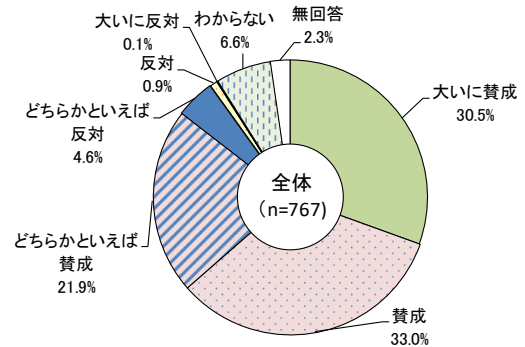


現状

育児休業・介護休業の取得

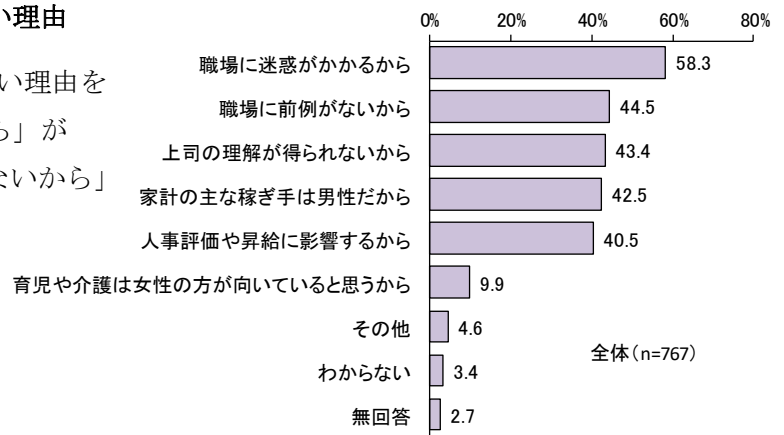
男性が育児休業・介護休業を取得することについての賛否

男性が育児休業・介護休業を取ることにについてたずねたところ、賛成とする意見は全体では8割以上となっています。



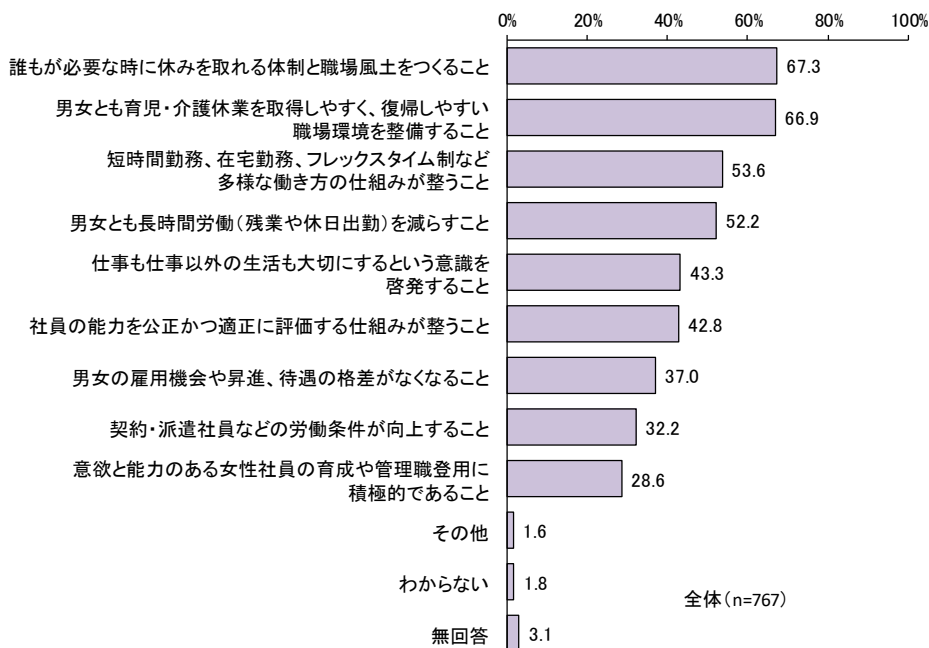
男性の育児休業・介護休業取得が進まない理由

男性の育児休業・介護休業取得が進まない理由をたずねたところ、「職場に迷惑がかかるから」が58.3%で最も高く、次いで「職場に前例がないから」が44.5%で続いています。



男女ともに働きやすい職場づくりのために重要なこと

男女ともに働きやすい職場づくりのために重要だと思うことをたずねたところ、「誰もが必要な時に休みを取れる体制と職場風土をつくること」が67.3%で最も高く、「男女とも育児・介護休業を取得しやすく、復帰しやすい職場環境を整備すること」が66.9%で続いています。

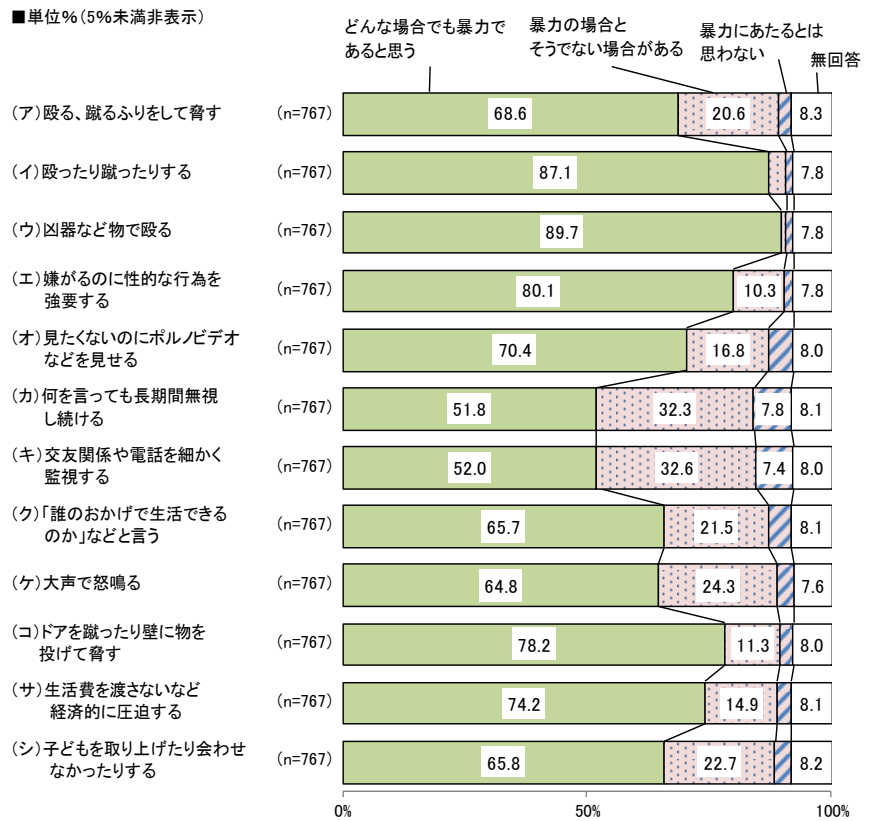


◎ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力）

暴力だと思うこと

夫婦や恋人などパートナーの間で行われた場合、各項目を暴力であると思うかたずねたところ、『(イ) 殴ったり蹴ったりする』『(ウ) 凶器など物で殴る』『(エ) 嫌がるのに性的な行為を強要する』『(オ) 嫌がるのに性的な行為を強要する』において8割以上が「どんな場合でも暴力であると思う」となっています。

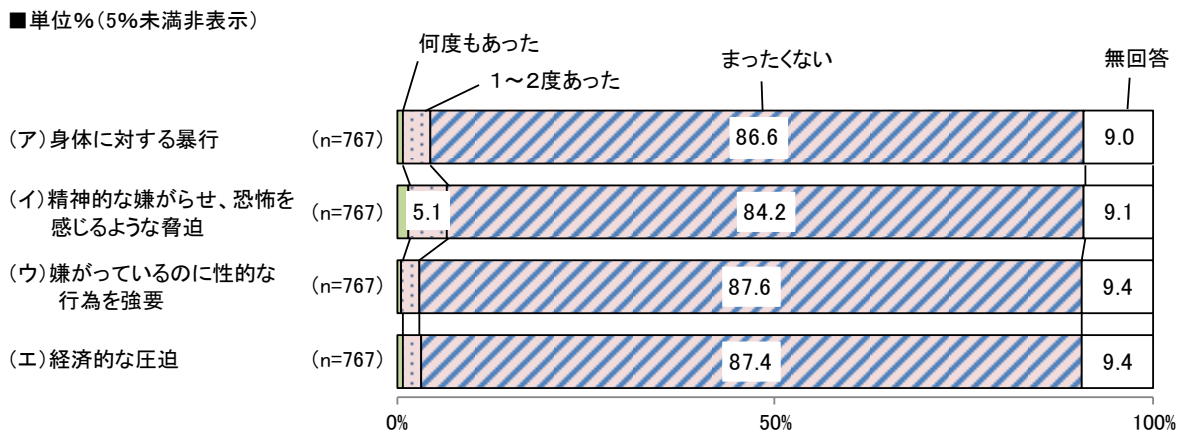
一方、『(カ) 何を言っても長期間無視し続ける』『(キ) 交友関係や電話を細かく監視する』においては「どんな場合でも暴力であると思う」は5割台にとどまっています。



※5%未満値 ⇒ 「暴力の場合とそうでない場合がある」： (イ) 3.7%、(ウ) 0.9%
 ⇒ 「暴力にあたると思わない」： (ア) 2.5%、(イ) 1.4%、(ウ) 1.6%、(エ) 1.8%、(オ) 4.8%、(ク) 4.7%、(ケ) 3.4%、(コ) 2.5%、(サ) 2.9%、(シ) 3.3%

ドメスティック・バイオレンスの被害経験

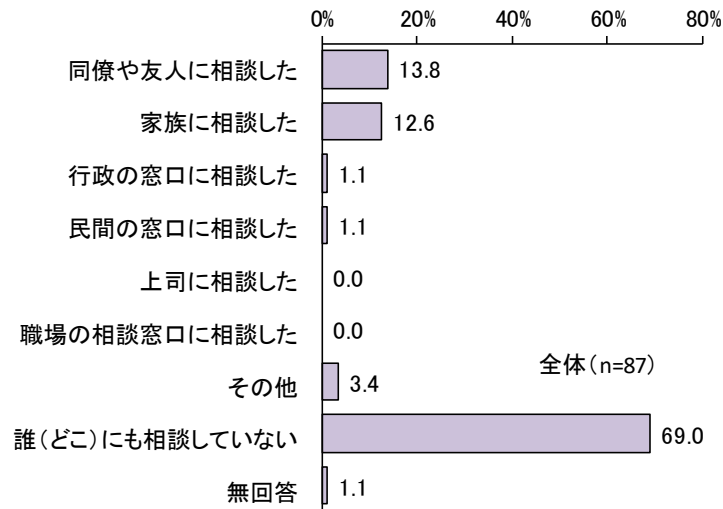
ここ1年間における配偶者や恋人などのパートナーからの暴力の被害経験をたずねたところ、『(ア) 身体に対する暴行』『(イ) 精神的な嫌がらせ、恐怖を感じるような脅迫』『(ウ) 嫌がっているのに性的な行為を強要』『(エ) 経済的な圧迫』のいずれも、「まったくない」が8割以上となっています。



※5%未満値 ⇒ 「何度もあった」： (ア) 0.8%、(イ) 1.6%、(ウ) 0.7%、(エ) 0.9%
 ⇒ 「1~2度あった」： (ア) 3.7%、(ウ) 2.3%、(エ) 2.3%

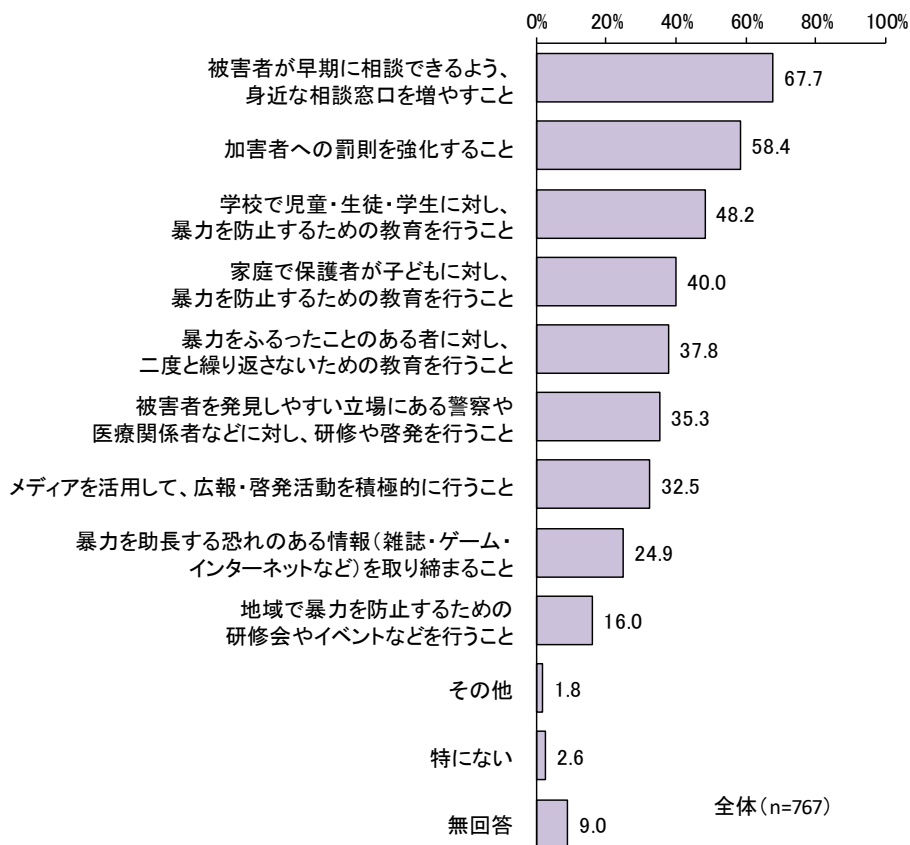
ドメスティック・バイオレンスの相談の有無

配偶者やパートナーからの暴力の被害経験があったと回答した人に対して、相談の有無をたずねたところ、「誰（どこ）にも相談していない」が69.0%となっています。



暴力の防止や被害者の支援のために必要なこと

暴力の防止や被害者の支援のために必要なことをたずねたところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やすこと」が67.7%で最も高く、「加害者への罰則を強化すること」が58.4%で続いています。



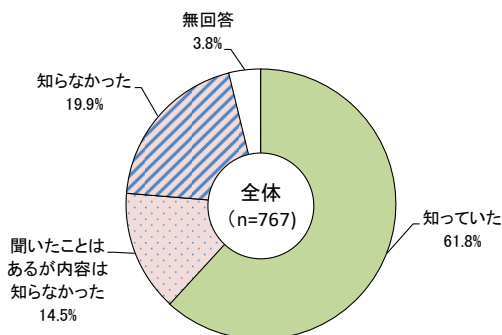
◎性的少数者（LGBT）

LGBTの認知度

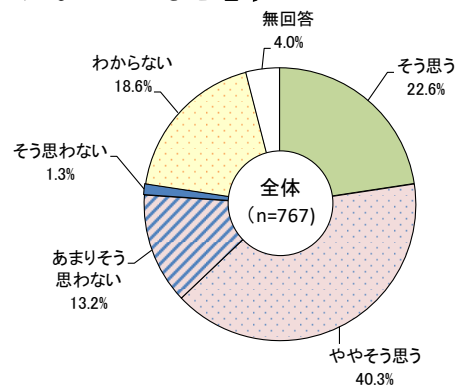
【市民調査】

「LGBT」という言葉の認知度についてたずねたところ、「知っていた」が61.8%、「知らなかった」が19.9%となっています。また、「LGBT」など性的少数者にとって人権侵害により生活しづらい社会になっていると思うかについては、「ややそう思う」が40.3%で最も高く、「そう思う」(22.6%)を合わせた《そう思う》は62.9%と、過半数を占めています。

LGBTという言葉を知っているか

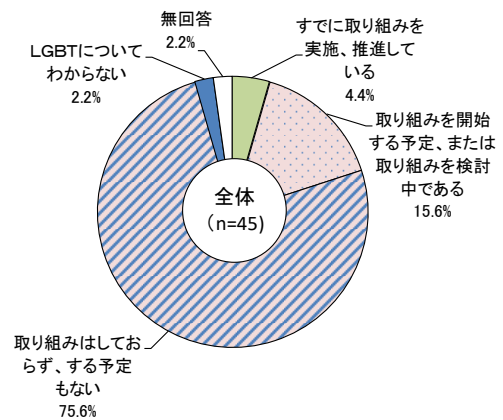


性的少数者にとって生活しづらい社会になっていると思うか



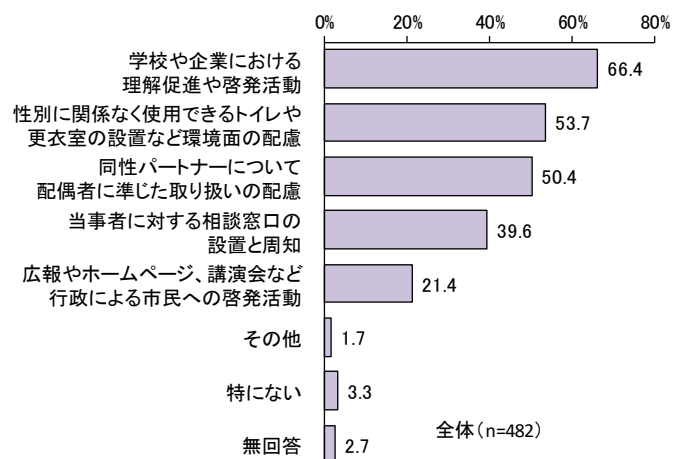
【企業・事業所調査】

「LGBT」など性的少数者についての対応をたずねたところ、「取り組みはしておらず、する予定もない」が75.6%と最も高く、次いで「取り組みを開始する予定、または取り組みを検討中である」が15.6%、「すでに取り組みを実施、推進している」が4.4%となっています。



性的少数者への支援として必要な取り組み

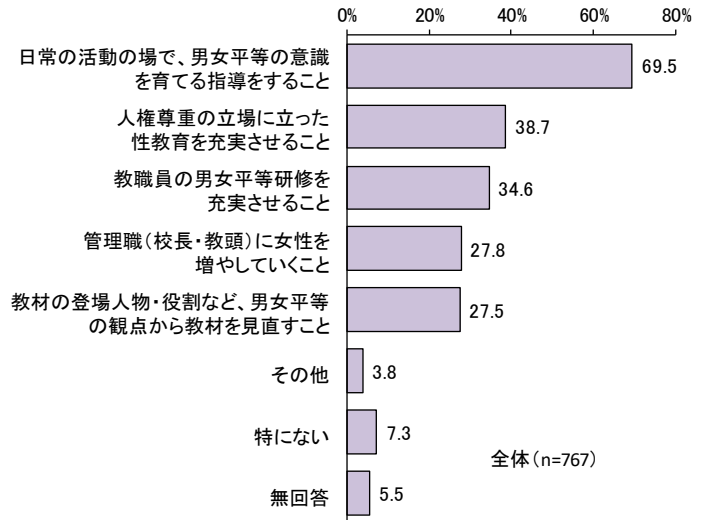
「LGBT」など性的少数者への支援としてどのような取り組みが必要と思うかをたずねたところ、「学校や企業における理解促進や啓発活動」が66.4%と最も高く、次いで「性別に関係なく利用できるトイレや更衣室の設置など環境面の配慮」が53.7%と続いています。



◎学校教育

男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れる必要があること

男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れる必要があることをたずねたところ、「日常の活動の場で、男女平等の意識を育てる指導をすること」が69.5%で最も高くなっています。



◎地域での活動

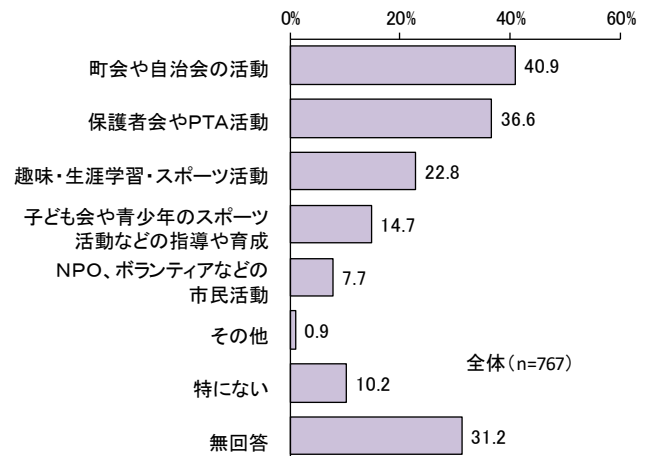
地域での活動

【市民調査】

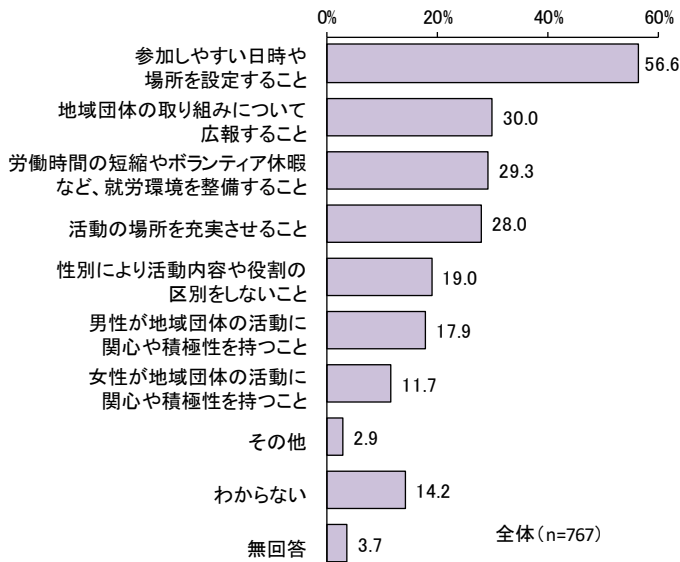
参加したことがある地域での活動をたずねたところ、「町会や自治会の活動」が40.9%で最も高く、「保護者会やPTA活動」が36.6%で続いています。

男女とも積極的に地域での活動に参加するために必要なことは、「参加しやすい日時や場所を設定すること」が56.6%で最も高くなっています。

参加したことがある地域での活動

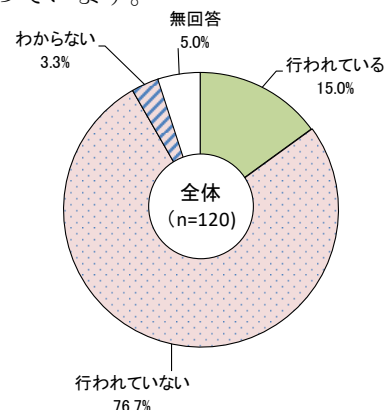


地域での活動に参加しやすくするために必要なこと



【市民活動団体調査】

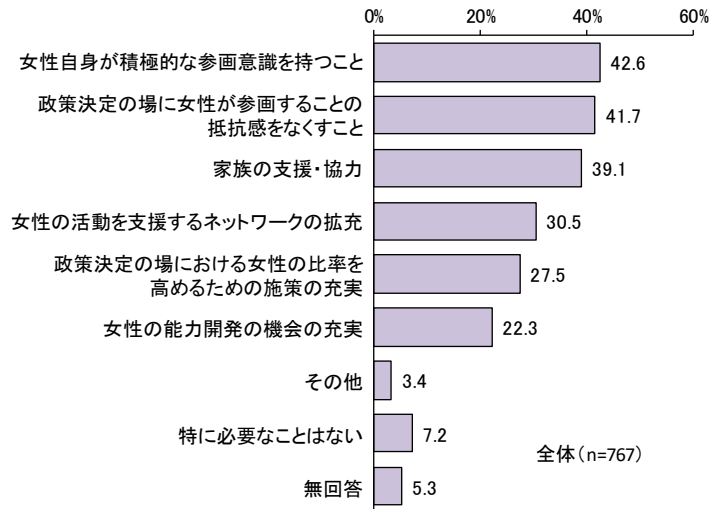
性別による役割分担の有無をみると、「行われていない」が76.7%、「行われている」が15.0%となっています。



◎草加市の政策決定の場への女性の参画

市議会や審議会などへの女性参画推進のために必要なこと

市議会や審議会などへの女性参画推進のために必要なことをたずねたところ、「女性自身が積極的な参画意識を持つこと」が42.6%で最も高く、「政策決定の場に女性が参画することの抵抗感をなくすこと」が41.7%で続いています。

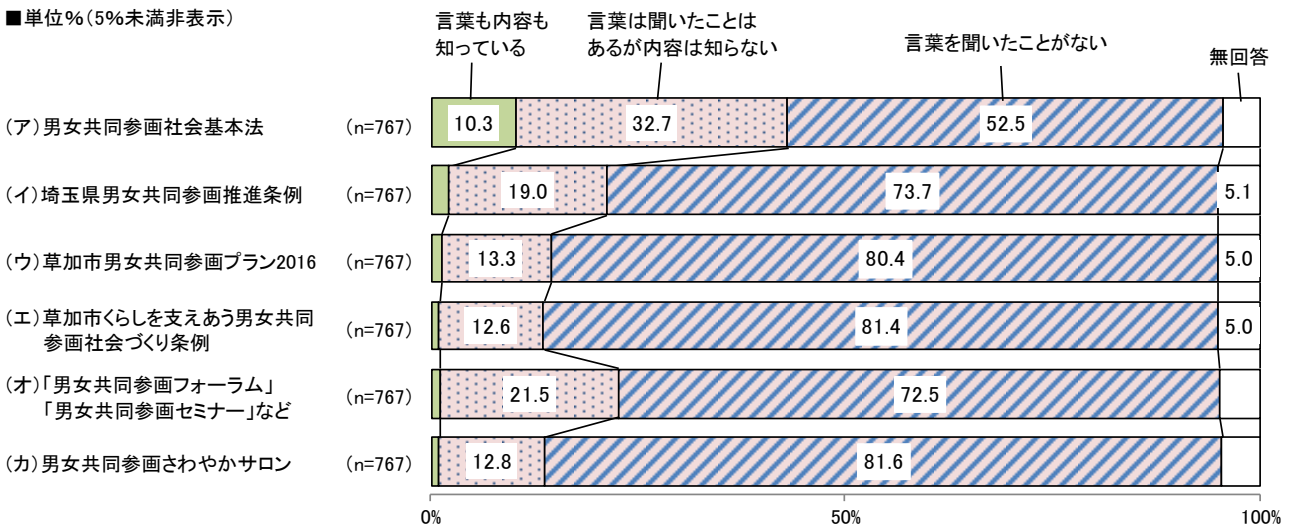


◎男女共同参画推進に関する行政施策

男女共同参画推進に関する法律や計画、情報などの認知度

『(ア) 男女共同参画社会基本法』を除き、いずれの項目でも「言葉を聞いたことがない」が7割以上となっています。特に『(ウ) 草加市男女共同参画プラン2016』『(エ) 草加市くらしを支えあう男女共同参画社会づくり条例』『(カ) 男女共同参画さわやかサロン』は「言葉を聞いたことがない」が8割以上となっています。

■単位% (5%未満非表示)

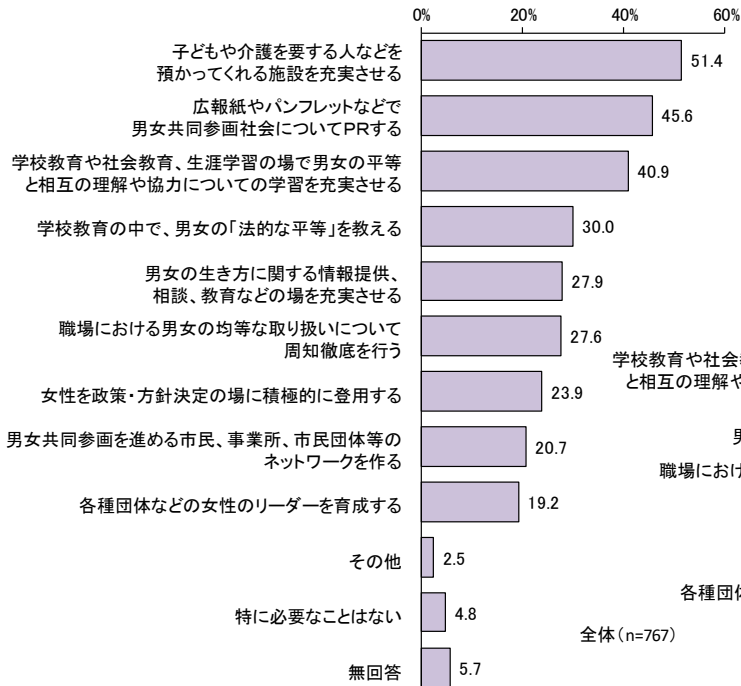


※5%未満値 ⇒ 「言葉も内容も知っている」: (イ) 2.2%、(ウ) 1.3%、(エ) 1.0%、(オ) 1.2%、(カ) 1.0%
⇒ 「無回答」: (ア) 4.4%、(オ) 4.8%、(カ) 4.6%

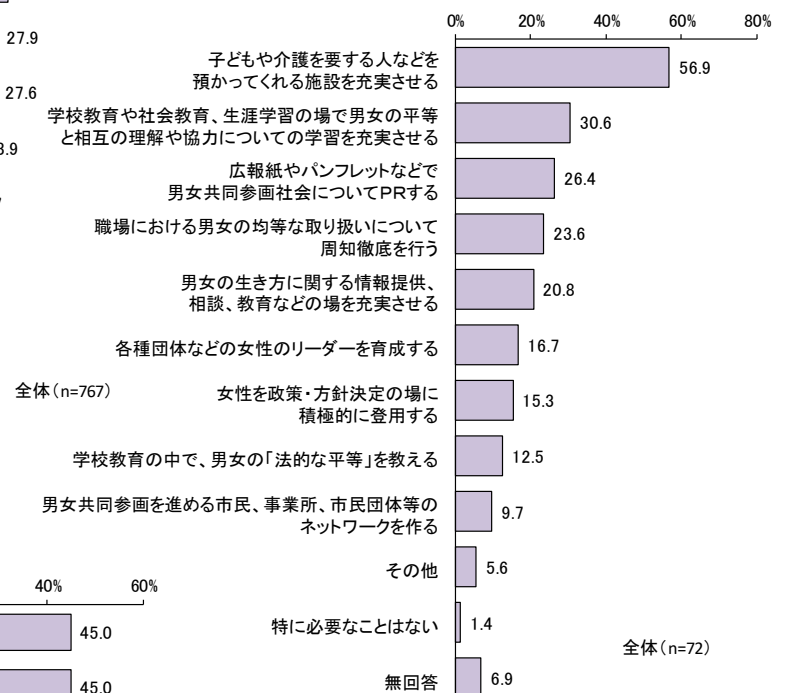
男女共同参画推進のために草加市が力を入れるべきこと

市民調査、企業・事業所調査、市民活動団体調査のいずれでも「子どもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実させる」、「広報誌やパンフレットなどで男女共同参画社会についてPRする」、「学校教育や社会教育、生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる」が上位3項目となっています。

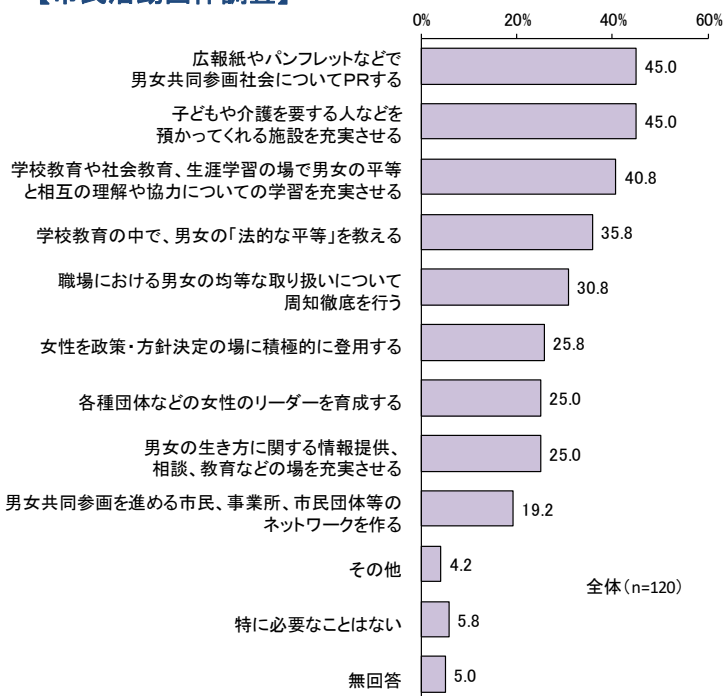
【市民調査】



【企業・事業所調査】

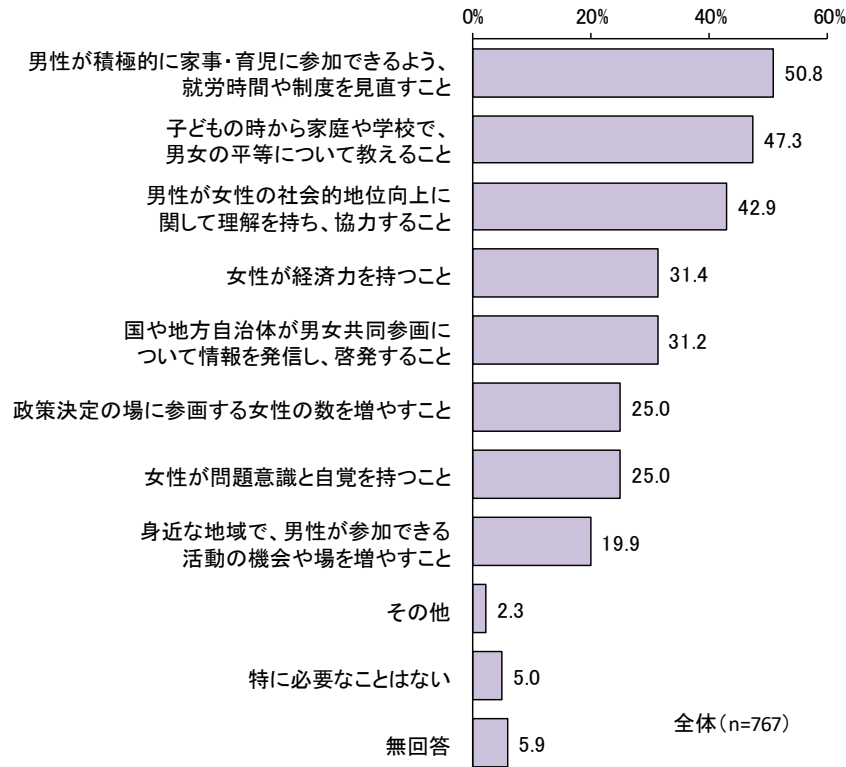


【市民活動団体調査】



男女共同参画社会実現のために社会全体として必要なこと

男女共同参画推進のために社会全体として必要なことをたずねたところ、「男性が積極的に家事・育児に参加できるよう、就労時間や制度を見直すこと」が50.8%で最も高く、「子どもの時から家庭や学校で、男女の平等について教えること」が47.3%で続きます。



令和2年3月
草加市男女共同参画アンケート 調査結果報告書（概要版）

発行 草加市 総合政策部人権共生課
〒340-8550 埼玉県草加市高砂1-1-1
電話：(048) 922-0825
FAX：(048) 927-4955
ホームページ：<http://www.city.soka.saitama.jp/>
